

『血小板低下の時に使う血小板産生促進剤登場！ 血小板輸血が回避される！』

肝臓川柳 『TPO 輸血の代わりに 即、賛成！』



即賛成・・・賛成即・・・産生促・・・産生促進・・・血小板産生を促進！
.....ノノノノノ

1994年に血小板再生促進を起こすトロンボポエチン（TPO）が発見されてから20年以上が過ぎましたが、最近ようやく血小板産生促進剤として使用可能になりました。

（商品名；ムルプレタ（塩野義製薬））

TPOは巨核球（血小板の元）の分化、増殖を起こし血小板を増加させます。

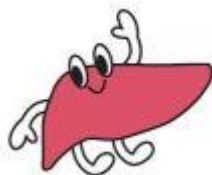
血小板5万未満の患者さんに肝癌治療のラジオ波焼灼術（RFA）などの観血的手技を行う前に、血小板輸血の代わりに使用でき、輸血より有意に血小板数増加が続きます。

発売が遅れた理由である「TPO受容体抗体産生による作用減弱」は、“製剤の小型化”で克服されており、副作用の1つである「血栓症」は、“使用方法、血小板数チェック”によりほとんど問題なくなっています。

手技の1週間前から3mg/日投与し、5日目に血小板数をチェックします

（5万以上達成あるいは2万以上増加で中止）

投与出血リスクの回避に今後適応が広がることが期待されます。



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

血小板再生を促すトロンボポエチン（TPO）がようやく血小板産生促進剤として使用可能に！

血小板輸血の代わりに使用でき、輸血より有意に血小板数増加が続く

副作用の1つである血栓症は使用方法、血小板数チェックによりほとんど問題なくなっている

（文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫）